

博物館
だより

ミニミニマインズ



第 198 号

2011.10



鉱業博物館

リニューアルオープン

約4ヶ月間の改修工事を経て10月1日(土)に鉱業博物館がリニューアルオープンしました。当日はあいにくの雨模様となり、オープニングセレモニーは博物館1階中央ホールにて執り行われました。鉱山専門学校時代の卒業生をはじめ総勢200名を超える多くの関係者が、一堂に会してセレモニーに参加しました。西谷博物館長による式辞、小川研究科長の挨拶、来賓を代表して菊地北光会会長より祝辞をいただきました。また西田副学長、小川学部長、西谷博物館長、菊地北光会会長、高橋北光会副会長によるテープカットが行われ、無事新しい博物館をお披露目することができました。博物館専任講師の西川先生と、博物館内全体のレイアウトや説明パネルのデザインを担当していただいた教育文化学部の

石井先生より展示の概要について説明していただいた後、館内の見学となりました。

リニューアルに際しては1階が鉱物・岩石、2階が地球の歴史、3階は資源の利用などテーマ別に展示を再編しました。現在大変注目を集めているレアメタルの資料の展示も充実しています。

リニューアルオープン記念として1日午後と2日は一般に無料開放し、約800名もの来館者が訪れ大変な賑わいとなりました。



リニューアルオープンのパンフレット



式辞を述べる西谷忠師博物館館長



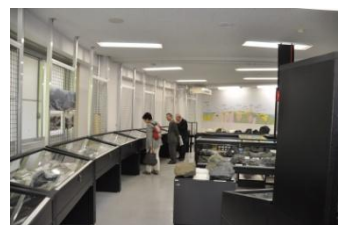
展示の概要を説明する西川治博物館専任講師



教育文化学部美術教育講座の石井宏一先生



テープカットの様子



第1回 鉱業博物館特別展示

リニューアル記念 「秋田鉱山専門学校ゆかりの品々」

期間 平成23年10月1日(土)～11月6日(日)

会場 鉱業博物館2階特別展示室



今回の改修工事で新設した特別展示室では、秋田鉱山専門学校ゆかりの品々を展示しています。校歌や北光寮歌が流れる空間で、歴代の学長の肖像画、開学式の様子や実習の写真など、開学当手を偲ばせる展示品を数多く展示しています。卒業生の方々に大変人気の高い展示です。



第1回 市民開放講座

「鉱業博物館鉱業資料の紹介」 講師 吉城 文雄 氏



〔元日本鉱山業史研究所主任研究員 元国際連合大学鉱業研究部
元仙台第一高等学校教諭 秋田大学学芸学部卒業 仙台市在住〕

10月1日リニューアルオープンに合わせ、吉城文雄さんをお招きして第1回市民開放講座を開きました。吉城さんは今春、当博物館に鉱業に関する多数の資料を寄贈してくださいました。今回はそれらの文献を収蔵した展示室を公開し、長年研究されている鉱山史について講演していただきました。秋田藩で院内銀山奉行を務めた梅津政景の日記や、フランスの鉱山技師フランシスク・コワニエが明治初期に記述した「日本鉱物資源に関する覚書」等、現在は入手困難な貴重資料を紹介しながらの講演に、サイエンスボランティアの皆さんは熱心に聞き入っていました。寄贈した文献をぜひ有効に活用して欲しいとお話されていました。



講演する吉城さん(中央)と熱心に耳を傾けるサイエンスボランティアの皆さん
右側は寄贈された文献を収めた書庫

たくさんのご協力

ありがとうございました!

サイエンスボランティアの皆さんや学生の皆さんはリニューアル工事の当初から様々なお手伝いをしてくださいました。細かい手作業が多い中、根気強く丁寧に仕上げてくださいました。オープン前日には館内の清掃をしたり展示ケースを磨いたり最後までお手伝いいただき、無事お披露目することができました。



約4,000点の標本ラベルを1つ1つ手作り



約4ヶ月かけて行われた石油槽模型の修復



標本展示台の補修や彩色作業



地球儀にLEDライトを設置するための配線作業



プランターの花の植付けや設置作業



↑ 岩石粉碎機



粉碎機に木柱を渡して皆で担ぎます



力を合わせて階段を一段ずつ上げていきます



階段の高さに合わせて一段一段足場を組んでの作業

今回最も困難を極めたのがコンクリャッシャー(岩石粉碎機)の模型の設置です。重さ約370kgもの機械を人力で3階まで運び上げました。技術部の川辺総括技術長の指揮のもと、技術職員と学生の皆さんの見事な連携で半日がかりの作業が無事成功したときは大きな拍手が沸き起こりました。